

2021年の大学卒業生 進路決定率84.2%！

コロナ禍のもと卒業した大学生の進路――。

前年の決定率87.7%から3.5%ダウン！

旺文社 教育情報センター 2021年12月8日

旺文社では例年9月、『大学の真の実力 情報公開BOOK』を刊行している。全国の大学に調査を依頼。各大学の学部別の入学者関連データ(入学定員数、入学者数、女子占有率、地元占有率、入試方式別の入学者数など)、学部別の卒業生関連データ(卒業生数、進学者数、就職者数、公務員就職者数、教員就職者数など)、全学データ(男女別学生数、教員一人あたり学生数、外国人教員数など)を収録したデータブックだ。本稿では、卒業生関連データを基に、2021年3月大学卒業生の動向を、国公立大学別、男女別、学部系統別などの切り口で探ってみる。

◎『大学の真の実力 情報公開BOOK』(旺文社/2021年9月刊)の調査データに基づく。

◎調査データは2020年4月～2021年3月までの大学卒業生の、2021年5月1日現在の情報。

◎学部系統分類は、旺文社の分類に基づく。

◎本稿での進路区分の基準は次の通り。

・「進学者」＝大学院研究科、大学学部、短期大学本科、専攻科、別科へ進学した者。

・「就職者」＝自営業主等と無期雇用労働者の合計。

(注)本稿では、有期雇用労働者(雇用契約期間1か月以上の者)・臨時労働者(雇用契約期間1か月未満の者)は就職者に含めていない。文部科学省『学校基本調査』が示す「就職者」、旺文社『大学の真の実力 情報公開BOOK』に掲載の「就職者」とは基準が異なる。

・「臨床研修医」＝医学科、歯学科の卒後臨床研修医。

・「その他」＝「専修学校・外国の学校等入学者」「進学準備中の者、就職準備中の者、その他」「不詳・死亡の者」。

■「進路決定率」――就職率だけではわからない卒業後の進路状況を数値化！

大学卒業後の進路は、大学院などへの進学と、就職に大別できる。大学卒業生のなかには、たとえば資格試験準備や就職準備の者もあり、個別の事情があるとは言え、数値として表す場合は、上記囲みで示した「進学者」「就職者」「臨床研修医」の合計値が卒業生に占める割合で示すのが妥当と考え、これを本稿では「進路決定率」と定義する。

$$\text{進路決定率(\%)} = (\text{進学者数} + \text{就職者数}) \div \text{卒業生数} \times 100$$

※就職者数に臨床研修医を含む

卒業後の進路を示す指標として従来、就職率がある。この就職率、大学ガイドなどでよく見かけるが、計算式によって、求められる数値の意味は異なる。

計算式① 就職率(%) = 就職者数 ÷ 卒業者数 × 100

計算式② 就職率(%) = 就職者数 ÷ 就職希望者数 × 100

計算式③ 就職率(%) = 就職者数 ÷ (卒業者数 - 進学者数) × 100

計算式①…就職者が卒業者に占める割合を算出するため客観的な数値ではある。しかし、大学院への進学者が多い大学（とりわけ理系の大学や学部）では、その数値は反映されないため、就職率が低く算出される可能性がある。

計算式②…就職希望者を分母として算出している。「希望」という主観的な要素が入っている。たとえば、就職活動の結果、職を得ることができずに卒業し、卒業後の動向の詳細が不明になった場合、大学が「もともと就職を希望していなかった」と分類することは理論上可能だ。

計算式③…卒業者から進学者を減じたものを分母としている。客観的な数値と言える。

全体として…そもそも就職者の基準はどうなっているのか。ひとくちに、就職者と言っても、自営業、無期雇用、有期雇用、臨時労働などがある。たとえば、派遣労働者（文部科学省『学校基本調査』では、事業所で正規の職員扱いで雇用されていても労働者派遣法の適用を受ける場合は、有期雇用または臨時労働に分類）や、有期雇用のうち雇用期間1年以上でフルタイム勤務相当の者（文部科学省『学校基本調査』では、就職者扱い）など状況はさまざまだ。

計算式①では、大学院への進学者が多い大学と、そうではない大学を、就職率で比較することは困難だ。計算式②では、客観性の面での不安定さが否めない。計算式③は、こと就職に特化すれば客観的だが、卒業後の進路状況を示そうと考えた場合には、やはり進学者も含めたデータを見てみたくなる。いずれの場合も、就職者の内訳は気になる。

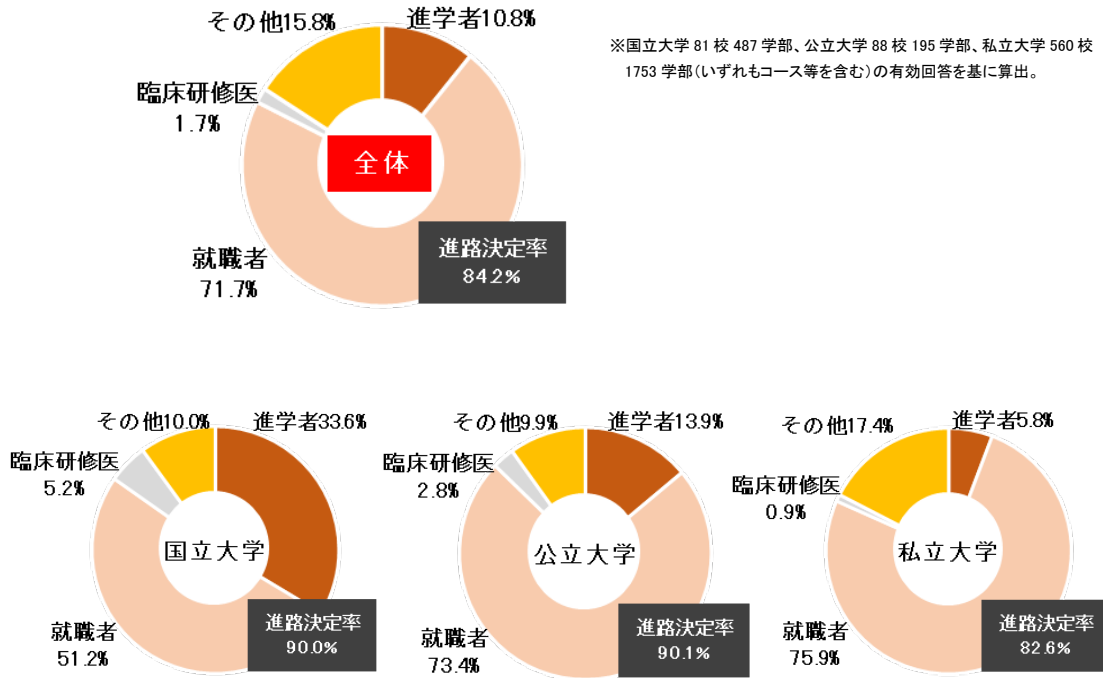
本稿では、前ページの囲みで記した通り「就職者」は、自営業主等と無期雇用労働者の合計とした。制約の強い基準とも言えるが、卒後直近の進路「決定」の指標として定義した。あわせて、進学者も進路「決定」に含めることで、大学卒業後の進路状況を数値化できる。

この進路決定率により、国立大学・公立大学・私立大学の別、男女の別、学部系統の別、大学の規模別など異なる切り口でも、同列の基準で数値を比較することができる。

受験生が大学選びをするとき、進路指導の先生方が大学を調べるときなど、その大学の卒業後の進路状況を見る際に、進路決定率の考え方が一助となれば幸いだ。受験生においては、卒業後の進路状況を志望校決定の参考とする際には、その大学の公表値が算出された計算式を確認したり、定義が不明な場合は照会したりするとよいだろう。

次ページから、旺文社調査のデータを各種切り口で見ていく。

【図表 1】 国公立大学別の進路決定率



■進路決定率 84.2%！ 前年比で進路決定率低下

図表 1 を見ていく。全体の進路決定率は 84.2%となった。国立・公立・私立の区分に着目すると、大きな傾向は前年と変わらない。すなわち、国立大学は進学者の割合が圧倒的に大きく、また、臨床研修医も多い。公立大学は進学者、就職者、臨床研修医の割合ともに全体の値を超えており、進路決定率が高い。私立大学は、就職者の割合が高い一方で、その他の者の割合も他に比べて大きい。

図表 2 で全体の進路決定率について前年との比較を示した。進路決定率は 3.5 ㊦下がった。就職者が 4.0 ㊦下がり、進学者が 0.5 ㊦増、その他が 3.5 ㊦増となっている。臨床研修医の割合は変わらなかった。進学を選んだ者が増えた点と、就職者の割合の低下から、就職活動に苦戦した状況がうかがえる。

【図表 2】 進路決定率 前年との比較

全体	2020年	2021年
進路決定率	87.7%	84.2%
進学者	10.3%	10.8%
就職者	75.7%	71.7%
臨床研修医	1.7%	1.7%
その他	12.3%	15.8%

図表 3 は進路決定率のゾーン別の学部数である。国公立大学は約 9 割の学部が 80%以上に分布している一方、私立大学は 80%未満のゾーンに 3 割強の学部が分布している。

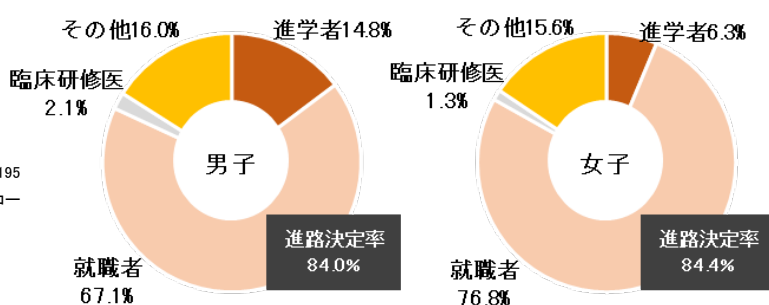
【図表 3】 国公立大学別 進路決定率ゾーン別の学部数

※国立大学 81 校 487 学部、公立大学 88 校 195 学部、私立大学 560 校 1753 学部(いずれもコース等を含む)の有効回答を基に算出。

進路決定率	国立大学 90.0%	公立大学 90.1%	私立大学 82.6%
90~100%	276	127	441
80~90%未満	157	49	688
70~80%未満	37	10	381
60~70%未満	12	6	139
50~60%未満	4	2	67
50%未満	1	1	37

[図表 4]
男女別の進路決定率

※国立大学 81 校 487 学部、公立大学 88 校 195 学部、私立大学 560 校 1753 学部(いずれもコース等を含む)の有効回答を基に算出。



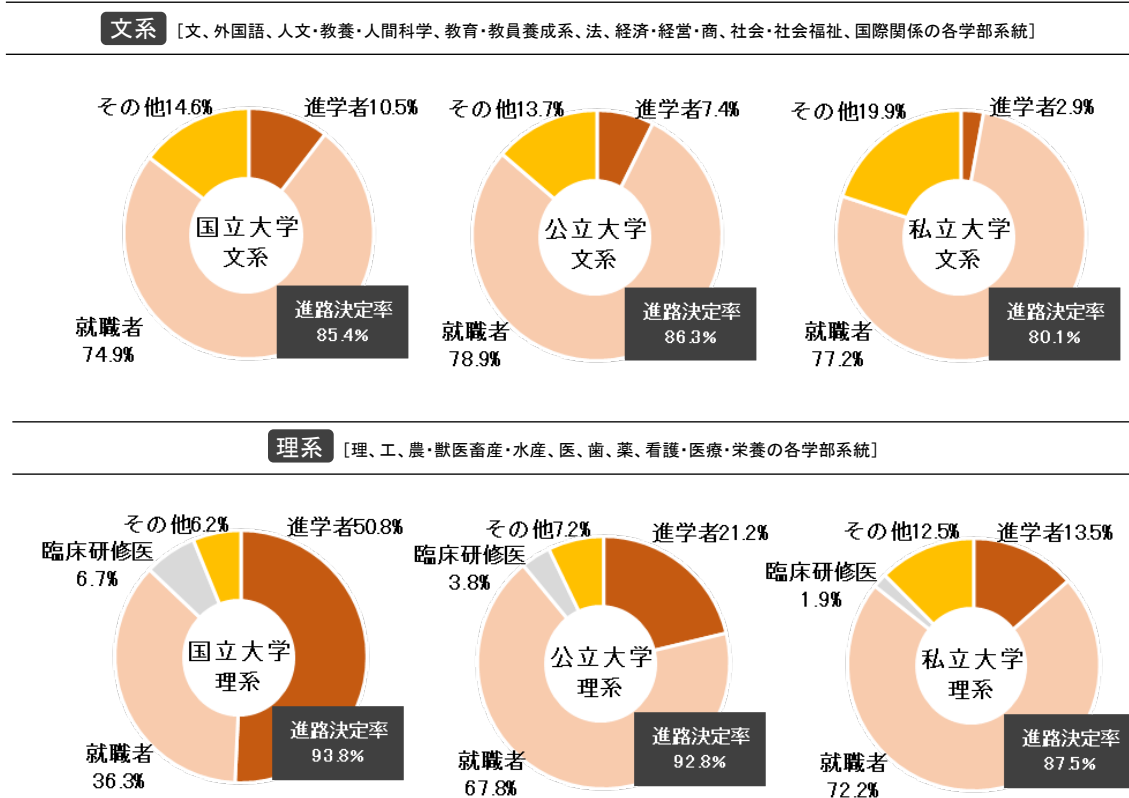
■男子は進学者の割合が高く、女子は就職者の割合が高い

男女別でも大まかな傾向は前年と変わらない。男女間で進路決定率に大きな差異はない。男子は進学者が多く、一方、女子は就職者が多い。進学者の多い理、工、農・獣医畜産・水産の各系統は男子が多い。一方、就職者の多い看護・医療・栄養学部系統の卒業者は女子が多い。このような背景から、進学と就職の傾向が現れてくる。

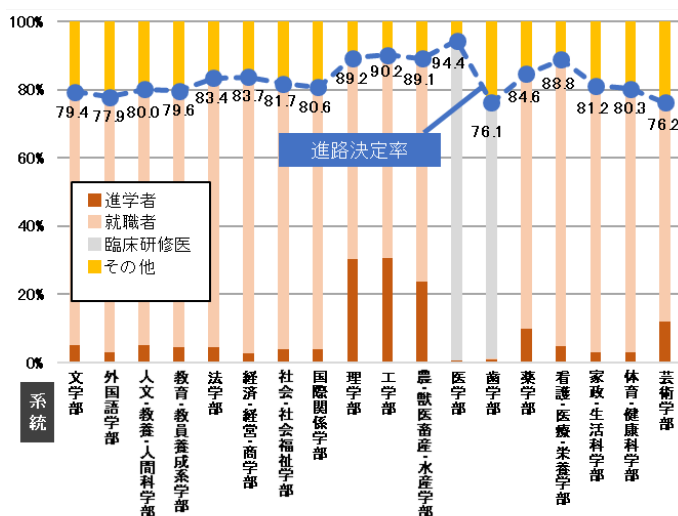
図表 5 は、卒業者を文系・理系に分け、さらに国立・公立・私立に分けて分析したグラフだ。国立大理系の進学者の多さが目を引く。図表 2 で、卒業者全体で前年との比較を示したが、図表 5 のように細分化してもやはり全体と同様の傾向が見られた。ほとんどのカテゴリで就職者が数割低下し、進学者が微増、その他増となった。国立大の文系のみ、進学者が前年 11.3%から本年 10.5%と微減だった。

**[図表 5] 国公私立大学別
文系・理系別の進路決定率**

※国立大学 81 校 487 学部、公立大学 88 校 195 学部、私立大学 560 校 1753 学部(いずれもコース等を含む)の有効回答を基に算出。



[図表 6]
学部系統別の進路決定率



※国立大学 81 校 487 学部、公立大学 88 校 195 学部、私立大学 560 校 1753 学部(いずれもコース等を含む)の有効回答を基に算出。

図表 6 で学部系統別の進路決定率を見ると、全体の進路決定率 84.2% を超えているのが、理、工、農・獣医畜産・水産、医、薬、看護・医療・栄養の各学部系統となっている。例年同様、理系 3 系統（理、工、農・獣医畜産・水産）の進学者の割合が大きいのが目を引く。

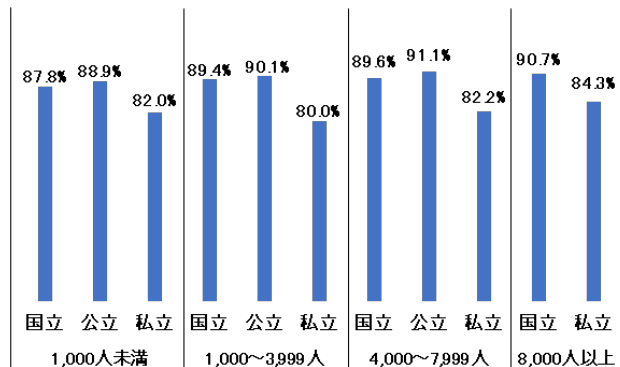
前年との比較をしてみる。前述のように全体では前年の進路決定率 87.7% に対し、本年は 84.2% と下がっており、学部系統別に見ても、ほとんどの系統で低下傾向が見られる。特に文系の学部は低下が顕著で、文学部が 4.7 ポイント減、外国語学部が 5.8 ポイント減、人文・教養・人間科学部が 4.6 ポイント減、国際関係学部が 5.3 ポイント減となっている。唯一、薬学部のみ 0.2 ポイント増となった。

[図表 7]
学部系統別の進路決定率 前年との比較

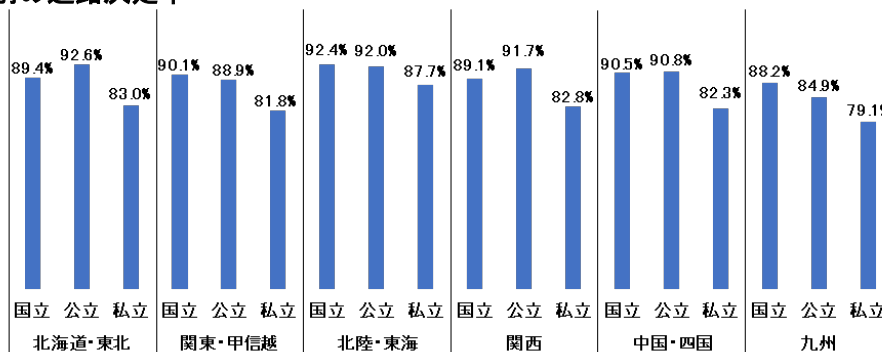
学部系統	2020年	2021年	前年からの増減
文学部	84.0%	79.4%	-4.7ポイント
外国語学部	83.7%	77.9%	-5.8ポイント
人文・教養・人間科学部	84.6%	80.0%	-4.6ポイント
教育・教員養成系学部	82.8%	79.6%	-3.2ポイント
法学部	87.6%	83.4%	-4.1ポイント
経済・経営・商学部	88.1%	83.7%	-4.4ポイント
社会・社会福祉学部	86.0%	81.7%	-4.3ポイント
国際関係学部	85.9%	80.6%	-5.3ポイント
理学部	92.0%	89.2%	-2.8ポイント
工学部	92.9%	90.2%	-2.7ポイント
農・獣医畜産・水産学部	91.9%	89.1%	-2.7ポイント
医学部	95.2%	94.4%	-0.7ポイント
歯学部	77.2%	76.1%	-1.1ポイント
薬学部	84.4%	84.6%	0.2ポイント
看護・医療・栄養学部	90.6%	88.8%	-1.8ポイント
家政・生活科学部	85.1%	81.2%	-3.9ポイント
体育・健康科学部	82.9%	80.3%	-2.6ポイント
芸術学部	81.0%	76.2%	-4.8ポイント

[図表 8]
大学の規模別(収容定員別)の
進路決定率

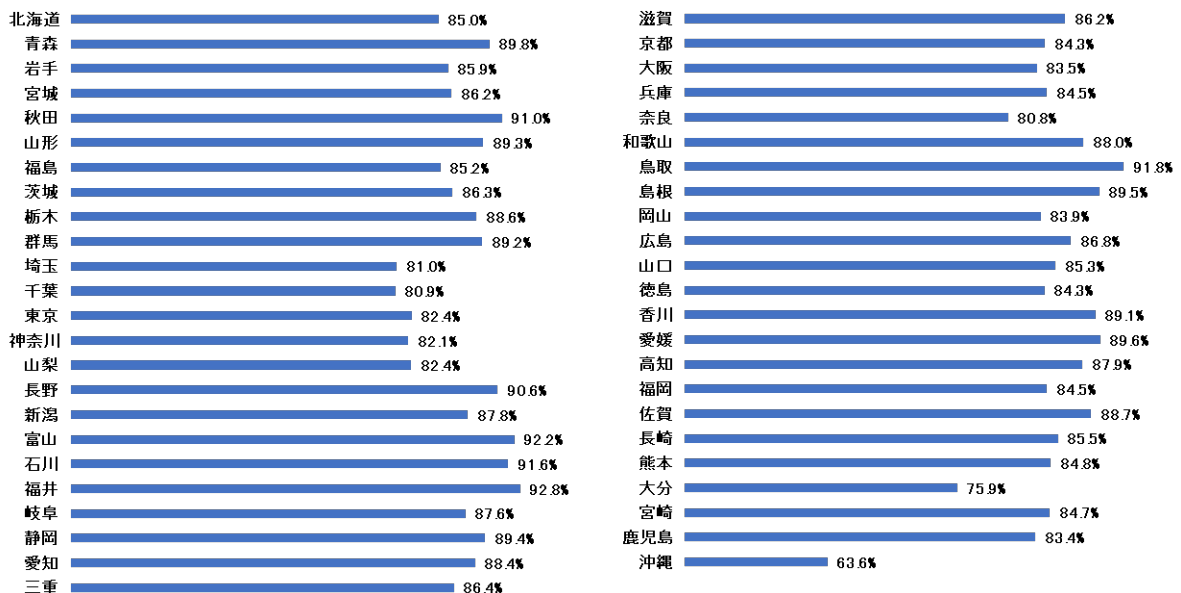
※国立大学 81 校 487 学部、公立大学 88 校 195 学部、私立大学 560 校 1753 学部(いずれもコース等を含む)の有効回答を基に算出。図表 9、10 も同様。図表 9、10 は大学の本部所在地で集計。



[図表 9]
エリア別の進路決定率



[図表 10] 都道府県別の進路決定率



■進路決定率は大学によりさまざま

図表 8 に大学の規模別(収容定員別)、国公立私立大学別の進路決定率を示した。前年同様、規模が大きい大学のほうが進路決定率が高い傾向にある。ただし、大規模大学でも個別大学のデータを見ると、進路決定率が 8 割未満の学部は見られる。

図表 9 と 10 では、エリア別と都道府県別の進路決定率を示した。当該のエリア・都道府県に国立・公立・私立の大学が何校、どのような規模で設置されているかで事情は異なるが、これも前年同様、北陸・東海エリア、そこに所在する県の進路決定率は高い。ただしこちらも各エリア、都道府県ともに、規模別の進路決定率と同様、個別のデータを見ると進路決定率の高低は大学によりさまざまだ。

■有期雇用労働・臨時労働に就いた者は、どのくらいいるのか

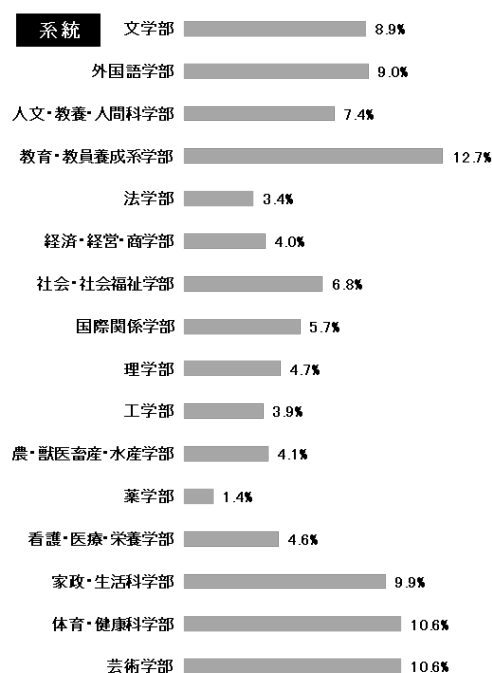
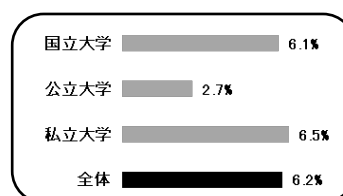
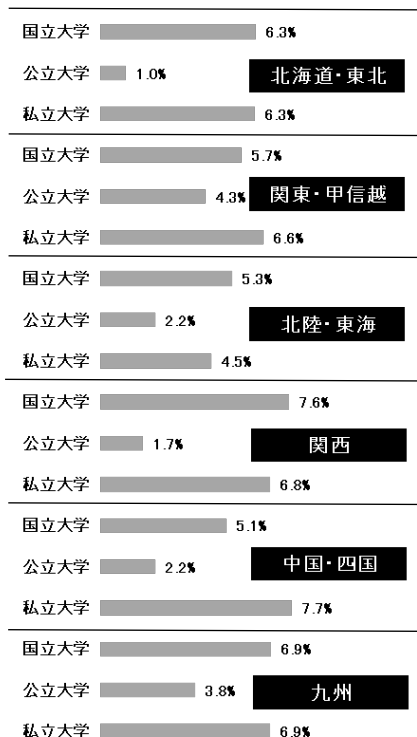
図表 11 に、大学卒業後に雇用契約期間の定めのある職に就いた者の割合を示した。大まかな傾向はここでも前年同様となった。すなわち、公立大学でその割合が低い。また、教育・教員養成系学部でその割合が高い。教育・教員養成系学部は教員の「臨時的任用」が影響していると考えられる。

[図表 11]

有期雇用労働、臨時労働に就いた者の割合 (国公立私立大学別/エリア別/学部系統別)

※(有期雇用+臨時労働)÷

(自営業+無期雇用+有期雇用+臨時労働)で算出。



※国立大学 81 校 487 学部、公立大学 88 校 195 学部、私立大学 560 校 1753 学部(いずれもコース等を含む)の有効回答を基に算出。

今回の調査結果の全体的な傾向は前年同様ではあったが、コロナ禍による就職事情の変化からほとんどの視点で進路決定率の低下が見られた。今後、コロナ禍が収束し、状況が好転することを願ってやまない。

(2021.12 今村)